

參考資料

参考資料 1 . 策定の経過

本計画の策定までの経過は、次に示すとおりです。

【平成 22 年度】

月 日	内 容
9 月 2 日	第 1 回総合計画等策定本部会議：幹部職員による庁内会議 (調査開始報告等)
10 月 26 日	町長ヒアリング
11 月 8 日	学識者講演(日本大学工学部建築学科 准教授：土方吉雄先生) 第 1 回計画策定プロジェクトチーム会議：中堅職員による庁内会議 (改定の視点等)
11 月 22 日	第 1 回まちづくり委員会：町民ワークショップ (計画策定の基本的考え方・プレワークショップ等)
12 月 15 日	第 2 回まちづくり委員会(総合計画に関するミニセミナー・懇親会)
1 月 17 日	第 2 回計画策定プロジェクトチーム会議 (基本構想の策定に関わる基本的事項等)
1 月 28 日	第 3 回まちづくり委員会(健康・福祉に関するワークショップ)
2 月 1 日	第 3 回計画策定プロジェクトチーム会議 (将来像・施策の大綱の柱の名称等)
2 月 18 日	第 4 回計画策定プロジェクトチーム会議 (施策の大綱と基本構想案等)
2 月 25 日	第 4 回まちづくり委員会(産業・地域振興に関するワークショップ)
3 月	パブリックコメント(中間。震災により中断)

【平成 23 年度】

月 日	内 容
6 月 9 日	第 5 回計画策定プロジェクトチーム会議 (序説及び基本構想(素案)等)
6 月 24 日	第 5 回まちづくり委員会(「震災を体験して」というテーマでの話し合い)
7 月 15 日	第 2 回総合計画等策定本部会議 (序説及び基本構想(前半)の素案等)
7 月 28 日	第 6 回まちづくり委員会(都市復興と協働に関するワークショップ)
8 月 26 日	第 7 回まちづくり委員会(教育・文化に関するワークショップ。提言書案の検討)
8 月 29 日	第 6 回計画策定プロジェクトチーム会議 (序説及び基本構想(素案)等)

9月16日	第3回総合計画等策定本部会議 (序説及び基本構想(素案)等)
9月28日	まちづくり委員会から町長に「鏡石町のまちづくりに向けた提言書」を提出
10月14日	第7回計画策定プロジェクトチーム会議 (大規模開発と将来人口・序説及び基本構想(素案)等)
10月28日	第4回総合計画等策定本部会議 (将来人口・序説及び基本構想(素案)等)
11月18日	第8回計画策定プロジェクトチーム会議 (将来人口・序説・基本構想・基本計画の素案等)
11月21日	*議会全員協議会への経過報告(経緯・策定の基本方針等)
12月16日	第9回計画策定プロジェクトチーム会議 (基本計画～の素案等)
12月21日	*議会全員協議会への経過報告(将来人口の考え方と現行計画と改定計画の体系)
1月13日	第10回計画策定プロジェクトチーム会議 (鏡石町第5次総合計画(素案)等)
1月20日	*議会全員協議会への経過報告(序説及び基本構想の素案)
1月25日	区長会における説明
1月31日	*議会全員協議会への経過報告(基本計画～の素案)
2月1日	第5回総合計画等策定本部会議 (鏡石町第5次総合計画(素案)等)
2月3日～22日	パブリックコメント
2月9日	*議会全員協議会への経過報告(基本計画～の素案)
2月10日	総合計画等審議会への諮問
2月16日	*議会全員協議会への経過報告(素案への意見聴取)
2月17日	総合計画等審議会(素案への意見聴取)
2月21日	*議会全員協議会への経過報告(素案への意見聴取)
2月24日	総合計画等審議会(素案への意見聴取)
2月27日	総合計画等審議会(総合計画原案の答申)
2月28日	*議会全員協議会への経過報告(総合計画原案)
3月1日	総合計画原案の決定
3月6日	*議会への上程
3月16日	*議会への最終報告と基本構想の議決

参考資料 2 . 検討に関わる組織に関する要綱及び委員名簿

(1) 鏡石町総合計画等審議会

鏡石町総合計画等審議会設置要綱

(目的及び設置)

第 1 条 鏡石町総合計画及び国土利用計画 (鏡石町計画) (以下「計画」という。) の策定に関し、町民の意見を計画に反映させるため、鏡石町総合計画等審議会 (以下「審議会」という。) を置く。

(所掌事務)

第 2 条 審議会は、町長の諮問に応じ、計画の策定に関する事項について調査審議する。

(組織)

第 3 条 審議会は、20 人以内の委員をもって組織する。

2 委員は、次に掲げる者のうちから、町長が委嘱する。

(1) 町議会議員

(2) 学識経験を有する者

(3) 各種団体を代表する者

(4) 町内企業を代表する者

(5) 町内金融機関を代表する者

(6) 前 5 号に掲げる者のほか、町長が必要と認める者

3 委員は、計画の策定が終了したときは、解任されるものとする。

(会長及び副会長)

第 4 条 審議会に会長及び副会長各 1 人を置き、委員の互選により定める。

2 会長は、会務を総理する。

3 副会長は、会長を補佐し、会長に事故あるときは、その職務を代理する。

(会議)

第 5 条 審議会の会議は、会長が招集する。ただし、委員委嘱後初の審議会は、町長が招集する。

2 審議会は、委員の過半数が出席しなければ会議を開くことができない。

3 審議会の議事は、出席委員の過半数で決し、可否同数のときは、会長の決するところによる。

(資料等の提出要求)

第 6 条 審議会は、その所掌事務を遂行するため必要があると認めるときは、関係者の出席を求め、必要な資料を提出させ、説明又は意見を聞くことができる。

(庶務)

第 7 条 審議会の庶務は、総務課企画財政グループにおいて処理する。

(委任)

第8条 この要綱に定めるもののほか、審議会の運営に関し必要な事項は、会長が審議会に諮って定める。

附 則

- 1 この要綱は、平成22年6月24日から施行する。
- 2 この要綱は、平成25年3月31日に限り、その効力を失う。

鏡石町総合計画等審議会委員名簿

順不同・敬称略

	氏名	所属職名
1	木原秀男	総務文教常任委員会委員長
2	長田守弘	産業厚生常任委員会委員長
3	稲田戦勝	学識経験者（社会福祉施設長経験者）
4	有我忠	行政区長協議会会長
5	菊地栄助	農業委員会会長
6	吉田栄新	教育委員会委員長
7	正木正秋	社会福祉協議会会長
8	深谷荘一	商工会会長
9	鈴木寿久	すかがわ岩瀬農業協同組合鏡石支店長
10	友坂周子	女性団体連絡協議会会長
11	仲沼登美子	商工会女性部部長
12	安藤利幸	商工会青年部部長
13	小抜三吉	老人クラブ連合会会長
14	佐藤靖弘	体育協会会長
15	圓谷正幸	農業青年会議所会長
16	真船浩康	P T A連絡協議会会長
17	遠藤明宏	子ども会育成会連絡協議会会長
18	圓谷今朝夫	町企業代表（まきば会代表、つむらや食品（有） 代表取締役）
19	田辺裕勝	町企業代表（アイカ工業株式会社福島工場長）
20	矢吹信一	町金融機関代表（須賀川信用金庫鏡石支店支店長）

会長：有我忠

副会長：深谷荘一

(2) 鏡石町総合計画等策定本部会議

鏡石町総合計画等策定本部会議設置要綱

(目的及び設置)

第1条 鏡石町総合計画及び国土利用計画(鏡石町計画)(以下「計画」という。)を策定及び見直しのため、鏡石町総合計画等策定本部会議(以下「本部会議」という。)を置く。

(組織)

第2条 本部会議は本部長、副本部長、本部員をもって組織する。

2 本部長は、副町長の職にあるものを充てる。

3 副本部長は、教育長の職にあるものを充てる。

4 本部員は、課長等の職にあるものを充てる。

5 本部会議委員は、計画の策定及び見直しが終了したときは、解任されるものとする。

(所掌事務)

第3条 本部会議の所掌事務は次のとおりとする。

(1) 計画案の作成に関すること。

(2) 計画案作成のため、町民生活、産業経済、教育文化等町政全般にわたる将来の予測に関すること。

(3) 計画案作成のための国、県の重要施策の調査及び検討に関すること。

(4) その他、計画策定に必要な事項。

(本部長及び副本部長)

第4条 本部長は、会務を総理し、本部会議を代表する。

2 副本部長は、本部長を補佐し、本部長に事故あるときは、その職務を代理する。

(会議)

第5条 本部会議は、本部長が必要に応じ招集し、会議の議長は本部長がなる。

(計画策定プロジェクトチーム)

第6条 本部会議に付議すべき事案をあらかじめ調査検討するため、本部会議に計画策定プロジェクトチームを置く。

2 計画策定プロジェクトチームの委員は、職員のうちから各所属長の推薦に基づき、町長が任命する。

3 構成人員は14人とする。

4 その他計画策定プロジェクトチームに関することは、鏡石町プロジェクトチームの設置及び運営に関する規程(昭和58年鏡石町規定第1号)により運営する。

(庶務)

第7条 本部会議及び計画策定プロジェクトチームの庶務は、総務課企画財政グループにおいて処理する。

(委任)

第8条 この要綱に定めるもののほか、本部会議の運営に関し必要な事項は、本部長が別に定める。

附 則

1 この要綱は、平成22年6月24日から施行する。

鏡石町総合計画等策定本部会議本部員名簿

	本部職	職名	氏名
1	本部長	副町長	助川浩一
2	副本部長	教育長	高原孝一郎
3	本部員	総務課長	今泉保行
4	〃	税務町民課長	関根学
5	〃	健康福祉課長	高原芳昭
6	〃	都市建設課長	小貫忠男
7	〃	産業課長	柳沼英夫
8	〃	農業委員会事務局長	飛沢栄四郎
9	〃	上下水道課長	圓谷信行
10	〃	参事兼教育課長	木賊正男
11	〃	参事兼出納室長	八卷司
12	〃	議会事務局長	吉田賢司

計画策定プロジェクトチーム委員名簿

	所属名	職名	氏名
1	総務課	主査	常松 忠央
2	税務町民課	主査	面川 輝夫
3	税務町民課	主査	村岡 廣隆
4	健康福祉課	主任管理栄養士	渡辺 広美
5	健康福祉課	主査	影山 義記
6	健康福祉課	主査	佐藤 喜伸
7	産業課	主任主査	吉田 光則
8	産業課	主査	森尾 知之
9	都市建設課	主任主査	小貫 淳一
10	都市建設課	主査	矢部 憲宗
11	上下水道課	主査	吉田 めぐみ
12	上下水道課	主査	藤野 一
13	教育課	主査	須賀 康弘
14	教育課	主査	渡辺 光徳
事務局	総務課	主幹兼副課長	小貫 秀明
		主査	河合 範幸
		主査	真壁 光司

主任：小貫 淳一

副主任：渡辺 光徳

(3) 鏡石町まちづくり委員会

鏡石町まちづくり委員会設置要綱

(目的及び設置)

第1条 鏡石町総合計画及び国土利用計画(鏡石町計画)(以下「計画」という。)の策定に当たり、町民のまちづくりに関する意見を反映させ、町民と協働による計画策定を推進するため、鏡石町まちづくり委員会(以下「委員会」という。)を置く。

(組織)

第2条 委員会は、委員25人以内をもって組織する。

2 委員は、鏡石町の住民でまちづくりに意欲のある者及び町内の有識者の中から町長が委嘱する。

3 委員のうち若干名を公募し、応募者の中から町長が委嘱する。

(公募対象者)

第3条 前条第3項に規定する公募の対象者は、委嘱する時点において満18歳以上であって町内に住所を有する者又は町内の事業所に勤務している者とする。

(所掌事務)

第4条 委員会の所掌事務は次のとおりとする。

(5) 町を取り巻く現状と課題、及び地域づくり先進地事例の調査・研究すること。

(6) 町の施策等まちづくりに関する事項について協議を行い、その結果を町長に提言すること。

(会長及び副会長)

第5条 委員会に会長及び副会長各1名を置き、委員の互選により定める。

2 会長は、会務を総理する。

3 副会長は、会長を補佐し、会長に事故あるときは、その職務を代理する。

(会議)

第6条 委員会の会議は、会長が招集し、会長がその議長となる。

2 委員会は、委員の過半数が出席しなければ、会議を開くことができない。

(報酬)

第7条 委員の報酬は、無報酬とする。

(資料の提出等の要求等)

第8条 委員会は、その所掌事務を遂行するために必要があると認めるときは、町関係職員に対して、資料の提出、意見の開陳、説明その他の必要な協力を求めることができる。

(情報の取扱い)

第9条 委員は、委員の職務上知り得た情報を、委員会の設置趣旨を踏まえ、適切に取り扱うものとする。その職を退いた後も、同様とする。

(報告・提言)

第10条 委員会は、平成23年8月末日までに、会議の内容について町長に報告し、町の施策等まちづくりに関する事項について提言するものとする。

(庶務)

第11条 委員会の庶務は、総務課企画財政グループにおいて処理する。

(委任)

第12条 この要綱に定めるもののほか、委員会の運営に関し必要な事項は、会長が委員会

に諮って定める。

附 則

- 1 この要綱は、平成22年6月24日から施行する。
- 2 この要綱は、委員会が第10条の規定による町長への提言を行った日に限り、その効力を失う。

鏡石町まちづくり委員会委員名簿

順不同・敬称略

	氏名	備考
1	最上愛子	一般応募
2	真船義行	〃
3	根本竜太郎	〃
4	本田淳子	〃
5	飛沢紀子	〃
6	和気由美子	〃
7	鈴木かおる	〃
8	面川美起子	〃
9	大塚えり子	〃
10	吉田ミネ子	〃
11	和田守央	〃
12	圓谷正幸	農業振興推進委員会
13	吉田栄	農業青年会議所
14	面川洋子	農協職員
15	廣瀬奈津	商工会女性部
16	山野邊周作	商工会青年部
17	古内勝利	商工会職員
18	小栗政次	P T A連絡協議会
19	柳沼光子	女性団体連絡協議会
20	吉田政孝	子ども会育成会連絡協議会
21	町島洋一	あやめ株式会社
22	横田京子	読み聞かせボランティア
23	佐藤靖弘	体育協会
24	柳沼一良	国際交流推進協議会
25	影山圭一郎	消防団本部

会長：真船義行

副会長：最上愛子

参考資料 3 . 総合計画等審議会諮問及び答申書

(1) 諮問文

24 鏡総第 249 号
平成 24 年 2 月 10 日

鏡石町総合計画等審議会
会長 有我 忠 様

鏡石町長 遠 藤 栄 作

鏡石町第 5 次総合計画「基本構想（案）」について（諮問）

鏡石町第 5 次総合計画を策定したいので、別添「基本構想（案）」について貴審議会の意見を求めます。

(2) 答申文

平成 24 年 2 月 27 日

鏡石町長 遠 藤 栄 作 様

鏡石町総合計画等審議会
会長 有我 忠

鏡石町第 5 次総合計画「基本構想（案）」について（答申）

平成 24 年 2 月 10 日付 24 鏡総第 249 号をもって諮問のあった鏡石町第 5 次総合計画「基本構想（案）」について、慎重に審議した結果、適当と認め答申します。

なお、本構想に基づく各施策の実施にあたっては、特に下記の点について十分配慮されるよう要望します。

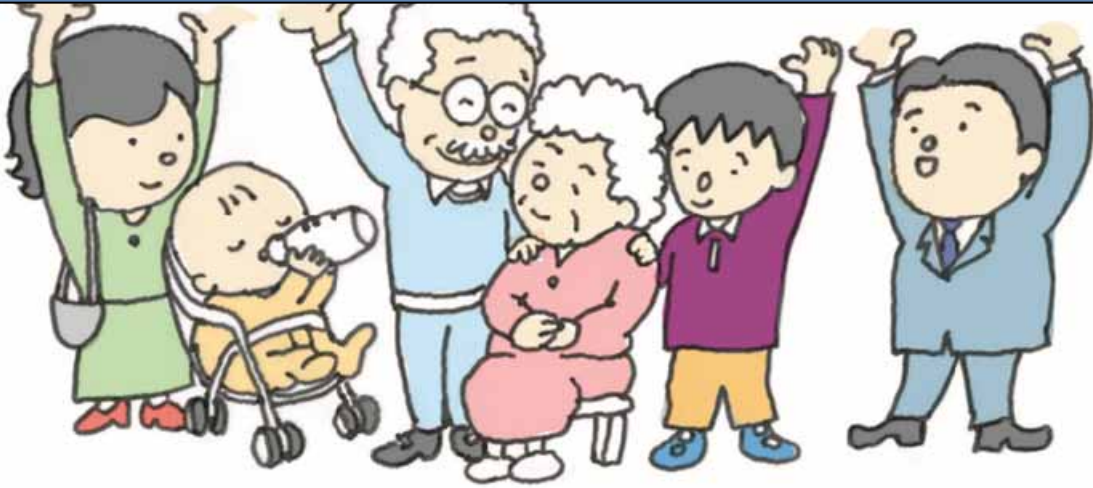
記

- 1 . 本計画の推進にあたっては、まちづくりの主役である町民と協働によるまちづくりの推進、行財政改革のさらなる推進、施策分野及び組織を超えた横断的な施策の連携を十分踏まえて取り組むこと。
- 2 . 未曾有の被害をもたらした東日本大震災からの復旧・復興、及び東京電力福島第一原子力発電所の事故による放射能問題や風評被害などの諸問題に対しては、速やかに対策を実行すること。

参考資料4 . 鏡石町のまちづくりに向けた町民提言書

- ・町民の意見を把握し、その意見を計画に反映するために、町民の参加の場として「まちづくり委員会」を開催し、「鏡石町のまちづくりに向けた提言書」をいただきました。
- ・その全文を、次ページ以降に掲載します。

鏡石町のまちづくりに向けた 町民提言書



平成23年9月28日

鏡石町まちづくり委員会

はじめに

鏡石町では、まちの今後の指針となる「第5次総合計画」等の策定にあたり、町民の意見を把握し、その意見を計画に反映するために、町民の参加の場として「まちづくり委員会」の開催を行うこととしました。

この「まちづくり委員会」には、各種団体代表や公募をはじめとする25人の町民の方々が参加し、平成22年11月から平成23年8月までに7回の話し合いを行ってきました。話し合いは「健康・福祉」、「産業・地域振興」、「教育・文化」等のテーマごと()に行いましたが、途中、東日本大震災が起きたことから、「震災を体験して」や「都市復興と協働」などの内容にまで及ぶものとなりました。

ここでは、話し合いの結果を順を追って整理した上で、『提言書』としてまとめました。

未曾有の大震災を乗り越え、笑顔にあふれ進化する鏡石の将来を築いていくために、今後のまちづくりにこの成果を活かしていただくよう、町長に提言いたします。

()テーマごとの話し合いにおいては、ビジョンや戦略を企画立案するにあたって、現状を分析する手法の一つである「SWOT分析」を取り入れました。SWOTとは、強み (Strength)、弱み (Weakness)、機会 (Opportunity)、脅威 (Threat) の頭文字をとったものです。

まちづくり委員会会長 真船 義行

テーマ毎の検討結果

話し合いのテーマは以下のとおりです。

1. 健康・福祉 ...平成 23 年 1 月 28 日
2. 産業・地域振興 ...同、2 月 25 日
3. 震災を体験して ...同、6 月 24 日
4. 都市復興と協働 ...同、7 月 28 日
5. 教育・文化 ...同、8 月 26 日

来場順に男女別に番号札を受け取り、“奇数”と“偶数”の 2 つのグループに分かれて話し合い、その結果を互いに発表してまとめました。

以下、テーマ毎に“奇数グループ”と“偶数グループ”の話し合いの結果を掲載します。

1 「健康・福祉」をテーマとした「SWOT分析」による町民提案

奇数グループ

O:機会、チャンス

- 散歩する人の増加
- 少とりのある世代の増加
- 医師が減って健康を自分で管理する流れになっている
- 子育てへの関心が高まっている
- 田舎に対するあるここがれや関心が高い
- 健康管理への関心の高まり
- スポーツや健康づくりの関心が高い
- 一人暮らしの高齢者へ、支援がいろいろある（声かけ）
- 介護の社会化が進展

S:強み

- 高齢者どうしつなが多い
- 高齢者による社会奉仕が多い
- 公共施設が充実している
- 運動施設が多い
- 立地条件に恵まれている
- 若年層の比率が高い
- 人がやさしく、いやされる
- 自然が豊かで時間がゆとりしている
- 野菜、果物がおいしく、自給率が高い（地場のものが食べられる）
- （他の市町村に比べ）子育ての環境が整っている
- 親子で健康づくりのため、町のスポーツサークルをつくった
- 災害が少ない（大雪、台風、大雨等）
- 高齢者が外に出やすい平坦な土地

T:脅威、ピンチ

- 高齢者の買物難民が増加している
- やはり商店街の問題などに至る
- 高齢者の孤独死が増加している
- 運動不足や肥満で悩む人が多い
- 心の障がい者が増加
- アレルギーの人の増加
- 公園・遊具の安全性
- 一人暮らしの高齢者が多く、不安
- 健康に不安を訴える人が多い
- 自殺者の増加（特に30代）
- 低体温の子ども、若者が増えている
- 近所づきあいがなくなってきた
- 将来的に年金がきちんと支給されるか心配
- 地域社会への無関心化
- 競争社会激化によりストレス増大

強み(S)とチャンス(O)を活かしてがんばろう

便利になるだけでなく、雇用も増える

立地条件に恵まれているので、医療・福祉施設を積極的に誘致します。

美味しい野菜を生かし、健康・鏡石ブランドをつくる

トップクラスの農業を活かして健康をアピールしたい

強み(S)を活かして、逆境(T)に立ち向かおう

高齢者の人から伝統芸能や文化の継承を

世代を超えた地域での交流で地域社会への無関心化が克服できるといいが

機会、チャンス(O)に乗じて弱み(W)を克服しよう

スポーツや健康づくりへの関心の高まりを背景に、十分活用されていない施設を活用して各種大会やスポーツクラブの充実にを図る。

活用のための体制をたちあげて、須賀川や郡山にもPR

逆転の発想 or 撤退

高齢化が進んでいるが、元気な高齢者も多いので、活躍の場をつくる。

定年退職の後に活躍できる場を用意すれば、さらに元気になる

W:弱み

- 老人ホームが少ない
- 肢体不自由の障がい者施設がない
- 総合病院や産婦人科がない
- 車が必要（バスが少ない）
- バリアフリーの施設がまだまだ少ない
- 核家族化して一人暮らしのお年寄りが増加
- 障がい者に対する声かけが少ない
- 人材が十分活用されていない
- これだけの設備がありながらもまだ活用できていない
- 知名度が低い

1 「健康・福祉」をテーマとした「SWOT分析」による町民提案

偶数グループ

T:脅威、ピンチ

- 少子高齢化の進展
- 景気の低迷、財政破綻

O:機会、チャンス

- 食や医療などさまざまな分野で安心・安全を求める声が高まっている。
- 健康や福祉への関心の高まり。
- 人とのふれあいや豊かなコミュニティを求める声が高まっている

S:強み

- 交通の便が良い、子育てしやすい、自然が多く静かなところ、土地が平坦で住みやすい
- 自然災害が少ない、気候が温暖。
- 子育てしやすい環境が整っている。若者が多い。犯罪が少ない。
- 野菜や果物がおいしい
- 売れるものがたくさんある（PRして買ってもらおう）
- 施設が充実している（多額の補助金が下りている）
- 町外者も利用するりっぱなプールがある（施設が良いだけでなく、水が飲める）

強み(S)とチャンス(O)を活かしてがんばろう

恵まれた施設を有効利用してカルチャー・スポーツ活動を通じて、健康・福祉・教育のまちをつくらう

健康な町、緑石をアピールする

強み(S)を活かして、逆境(T)に立ち向かおう

画期的なプールを活かして町民の健康のお手伝いをす

小中学校のプールを改修するよりも、立派なプールを活かす

W:弱み

- 総合病院がない、診療科がない（耳鼻咽喉科、眼科）。
- 実質公債比率が高い、借金を減らして欲しい。
- 高齢化に伴う要介護者の増加。
- 健康、福祉の予算が少ない（教育ともあわせて、まとめて運用すれば効果あり）
- 町民運動会がなくなってしまう（幼稚園、保育園、高齢者などが別々に活動している）
- 都市化して環境が変わってしまった
- 小中学校のプールが老朽化している

機会、チャンス(O)に乗じて弱み(W)を克服しよう

人とのふれあいや豊かなコミュニティを求める声を背景に、さらばらな運動会を世代交流型のひとつの運動会にしよう

子どもと高齢者の交流機会もつくる

逆転の発想 or 撤退

たくさんのサークル・グループ活動、芸能文化活動で行われているこれまでの発表会を、小中学校などへの出前型の発表会に変え、多くの人にみてもらおう

練習結果を子どもたちに見せにいく

2 「産業・地域振興」をテーマとした「SWOT分析」による町民提案

奇数グループ

O:機会、チャンス

- 地域個性をブランドとして高める手法が各地で定着。
- 食の分野でも安心・安全を求めめる声が高まっている。
- 自由な情報交換（インターネット）が世界を変える力をもちはじめた。
- スマートIC、高速道路利用者の増加。
- 地域情報の発信が盛ん。●B級グルメブーム。●おとりよせブーム。

T:脅威、ピンチ

- 専門的な農業経営やものづくり産業などで後継者の不在が深刻化。
- TPP（環太平洋戦略的経済連携協定）。

S:強み

- 農産物が豊か（きゅうり、米、果物（いちご、りんご、もも））。
- 交通アクセスに恵まれている（JR、R4、東北道、スマートIC、空港）。
- 農業の収入も多い、温泉もあり、道路の便もいい。
- 勤務地が近い。
- よい酒がある「鏡の滴」（牧場の滴米を利用）。
- 若者が多い。

W:弱み

- 町の強みが生かされていない、知名度が低い（岩瀬牧場、農業など）。
- 人材が活用されていない。
- 魅力のある名物（ブランド）・観光スポット・娯楽施設がない。
- 働く場所が少ない。人口が横ばい。旧態依然としている。
- よいものがたくさんあるのに、PRが弱い。
- 地元が、わがまちのよいところを知らない。
- 駅前が寂しい。拠点がわからない。

強み(S)とチャンス(O)を活かしてがんばろう

車が便利な立地条件を活かして、道の駅をつくって、まちのいろいろなよさと連携しよう。

自分で作れば安全だということがよくわかる。

市民農園で収穫したり、採れたものを販売したり、いろいろつないでいく。

温泉がある、観光に活用して農産物を売る。

工場見学ツアーも。

岩瀬牧場をもういちど見直そう

強み(S)を活かして、逆境(T)に立ち向かおう

図書館を拠点にグリーンロードを使って散歩するなど、今あるものを使って実現に近づける。

発表会での追加提案：新しく箱を作るのではなく、今ある施設を使って有効活用をすべき。

機会、チャンス(O)に乗じて弱み(W)を克服しよう

だれもが自由に情報交換できる便利さに乗じて、ブログやHP、タウン誌をつくって、まちの情報を発信しよう…まずは、地元から。

地元の野菜が買えるところや、お医者さんがあるところなど。

地元の人が増えず、わかるようにし、それを外に発信する。

逆転の発想 or 撤退

NPO法人を立ち上げたかどうか。役場も応援しやすい。

広報かがみいしのタウン情報版も。

高齢者など年配でも。パソコンが得意な人もいる。

2 「産業・地域振興」をテーマとした「SWOT分析」による町民提案

偶数グループ

O:機会、チャンス

- 地域個性をブランドとして高める手法が各地で定着。
- 食の分野でも安心・安全を求め声が高まっている。
- 自由な情報交換（インターネット）が世界を変える力をもちはじめた。
- 道の駅がブームに。
- 地域密着型ツアーとしての観光が人気をよんでいる。

T:脅威、ピンチ

- 専門的な農業経営やものづくり産業などで後継者の不在が深刻化。
- 高齢化が進んで車の運転ができなくなると、身近な商店街が重要に。

S:強み

- 農産物が豊か（きゅうり、米、果物（いちご、りんご、もも））
- 交通アクセスに恵まれている（JR、R4、東北道、スマートIC、空港）。
- まちの真ん中に鉄道の駅がある。
- 居住環境に恵まれている。人口が増えている。
- 収益の高い農家が多い。
- 岩瀬牧場がある。
- 温泉がある。

歩けば、車では見えないものが見えてくる。

鉄道と車の両方を結んで、人通りをつくる。

足湯、不時沼ハイキング、案内のボランティアガイドさん育成、イベント創出、鏡石検定など、『まちの駅』を拠点に、まちをめぐる。

強み(S)とチャンス(O)を活かしてがんばろう

鉄道の駅とみちの駅とあわせて、「まちの駅」をつくり、魅力スポットにし、あるいてまちをめぐる。

強み(S)を活かして、逆境(T)に立ち向かおう

住む場所としては最高のだから、もっと働く場をつくろう。

農業を6次化産業に高める

「牧場のしずく」をブランド米に、お米パリン、きさま（ごはん）大会、田んぼアート、など。

W:弱み

- 町の強みが生かされていない、知名度が低い（岩瀬牧場、農業など）。
- 人材が活用されていない。
- 魅力のある名物（ブランド）・観光スポット・娯楽施設がない。
- 働く場所が少ない。人口が横ばい。旧態依然としている。
- まちの中心に活気がない。
- ブランド品がない。
- 魅力ある直売所がない。

機会、チャンス(O)に乗じて弱み(W)を克服しよう

発表会での追加提案：集まった人のストーリーを描いてみたらどうか？

逆境の発想 or 撤退

通勤の朝に必要なもの、仕事から帰ったらフィットネス、子供は学校帰りに塾があったほうがいいかも。お医者さんがあったらいいのでは、2つの駅が1km弱ある距離をいろいろな人のシーンを想定して埋めていこう。

奇数グループ 3 「震災を体験して」…私たちが鏡石再出発にむけてのメッセージ

●私たちの震災体験

- ・田んぼにヒビが入ったり、崩れたり、地割れなどで稲作ができなくなった
- ・家がきしむ音がするようになった、家のダメージが大きかった
- ・半月間断水、断水が3週間続いた、4/3 夕方まで水道が出なくなりました
- ・買いためによる品不足
- ・食料品、日用品の入手困難
- ・ガソリン、灯油の入手困難

- ・個人商店の存在がありがたかった
- ・停電、電気が使えなくなると何もできなかったのでは
- ・排水溝が壊れて隣家に迷惑をかけた
- ・公共交通機関の普通（長期）
- ・瓦屋根の被害が多かった
- ・第1小学校が使用不能に
- ・諸行事の相次ぐ中止、過剰な傾向

●そこで得たもの(わかったこと、考えたこと)

- ・当たり前が当たり前でなかったこと
- ・オール電化住宅、停電時に困る
- ・町長さんから防災無線で応援メッセージなどの言葉が聞きたかった
- ・議員の人たち、現状の把握をしていなかったのでは？
- ・近所の方との助け合いで避難所に行かなくても生活できた
- ・命の大切さを改めて実感した
- ・近所が近くなった
- ・給水所でコミュニケーションが生まれた

- ・エネルギーの分散、オール電化の見直し
- ・自力（チャリ）で移動
- ・何が起きるかわからない
- ・周りの方たちの親切
- ・おかげで生きている、生かされている
- ・倒れたブロックをボランティアが片づけにきてくれた、うれしかった
- ・近所の人との助け合い
- ・生け垣の見直し

提案…鏡石再出発にむけてのメッセージ

- ・自助と互助の組み合わせ（共助、公助とは）
- ・感謝、感激、感動
- ・手を携えて生きる、一人では生きていけない
- ・近所の垣根を築かない（ブロック塀とコミュニケーション）
- ・原点に戻った
- ・遠くの知人の有難さ
- ・備える（個人及び公共）、知る・知らせる、力を合わせる（組織・訓練・ボランティアなど）
- ・放射線の健康への不安があるので、鏡石を健康・長寿のまちにする
- ・過度の依存（症）からの脱却、生活の見直し
- ・公共施設の多用途設計
- ・町長は国に被害の大きさを訴えて

復興を早めるためには自分たちで

偶数グループ 3 「震災を体験して」…私たちから鏡石再出発にむけてのメッセージ

●私たちの震災体験

- ・ 予防接種を受けていた。
- ・ 家の中には入れないほど家具がちらかっていた
- ・ くもん式学校で生徒をかばっていた、遠い子供は車で送って行った
- ・ 小さい子は、怖くて一人でいれないほど
- ・ 林精機の工場がべしゃんこにつぶれてしまった
- ・ 電話が通じない
- ・ 4号線が混んで、他の道は陥没していた
- ・ 第1小学校が使えなくなってしまう、体育館がつぶれてしまった
- ・ 保育所において、お昼寝中だったので子供を布団の中に入れた
- ・ 迎えに来てもらうために8時過ぎまで残った。

- ・ 2時間、家族と連絡つかず
- ・ 町から出られず町外のようなすかわからなかった
- ・ ラジオで知った
- ・ コミュニティセンターにいた
- ・ 駅の中はすごいことになっていた
- ・ 駅からまちが揺れているのを見ていた
- ・ 電気は通じていた、停電だったら危険だった
- ・ 仕入れに車を提供しあって
- ・ お店のみそをいただいた

●そこで得たもの(わかったこと、考えたこと)

- ・ ガソリンの給油は並んで順番待ち、整理券を発行していた
- ・ 収納は観音開きよりも引き違い戸が良い
- ・ 屋根の下に車は止めない
- ・ 電車やバスが動かさず、ガソリンもないので自転車を使った
- ・ ガスが使えた、プロパンで良かった
- ・ 電車で帰ろうとする人がいて、急きよ、避難所を決めて誘導した

- ・ 地震直後に皆が学校に集まった（避難場所として重要）
- ・ 井戸があったので給水はOK、汲みあげていたらだんだんきれいになっていった
- ・ 商店が店を開けてくれていた（助かった）

提案…鏡石再出発にむけてのメッセージ

死者、火事がなかった

4 「都市復興と協働」をテーマとした「SWOT分析」による町民提案



- ★自力(チャリ)で移動できるまち
- ★商店街と連携したまちづくり
- ★近所の垣根を築かないで(ブロック塀のないコミュニケーションづくり)
- ★町民力、地域力の向上
- ★エネルギーの過度の依存(症)からの脱却、生活の見直し
- ★復興を早めるためには自分たちで
- ★死者と火事がなかった

T:脅威、ピンチ

- 風評被害
- 国、市町村の連携不足、仮設住宅
- 個人商店が少ない
- 商店・食堂、どこにあるかわからない
- ポランテアで集まった人たちをうまく活用できなかった
- 気持ちの復興をしなければいけない

O:機会、チャンス

- 地震は当たり前の生活が当たり前ではないことを私たちに教えた
- エネルギーに過度に依存する生活、社会を改めるチャンス
- 国道4号線を拡幅して、道の駅をつくるチャンス
- 震災時に役に立つ浄化槽設置を推進するのに良い機会
- 非効率なものが役に立つのを見直すチャンス(井戸、コミュニティ)

奇数グループ

S:強み

- 井戸が助かった、洗濯やトイレに活用
- 核家族が少なく、家族で支えあえた
- 個人商店ががんばった
- 防災無線、細かい情報が役に立つ
- 縁が多く、景観にも恵まれている

強み(S)を活かして、逆境(T)に立ち向かおう

まちは元氣、鏡石のフラスマイメージを全国へ発信しよう。

今こそ地産地消を推進すべき。

エネルギー、風力、太陽光等自然エネルギーのまちのイメージづくり。

生垣に助成条例を、景観にも良い。

強み(S)とチャンス(O)を活かしてがんばろう

被害は大きかったが死亡者がいなかった。

地元農業や商店街が生活を支えるまち。

まちは元氣、鏡石のフラスマイメージを全国へ発信しよう。

今こそ地産地消を推進すべき。

W:弱み

- ポランテア、たくさん集まったが手配がうまくいかなかった
- 公共施設は非常時を想定してつくるべき
- 公の施設は分散したほうが良い
- 消防団が縮小傾向にある
- 停滞している駅東の開発に、小学校はどうか
- コミュニティの希薄
- 上下水道の復旧が遅い
- 線路がじゃま
- 自転車安全に通れない道が多い

逆転の発想 or 撤退

自転車で移動できるまちづくり。

交通機関がためでも、自転車に役に立つまちに。

平地で自転車が使いやすい。

ガンリンもいらず、健康にも良い。

機会、チャンス(O)に乗じて弱み(W)を克服しよう

連絡が取りあえ、助けあえるコミュニティづくり。

井戸マップをつくる。

安全な公共施設があるまちに。

平時のときからポランテア組織の確立、訓練を。

消防団に女性グループも参加して。

気軽にできる相談窓口を設置。

4 「都市復興と協働」をテーマとした「SWOT分析」による町民提案

- ★自力(チャリ)で移動できるまち
- ★商店街と連携したまちづくり
- ★近所の垣根を棄かないで(ブロック塀のないコミュニケーションづくり)
- ★町民力、地域力の向上
- ★エネルギーの過剰の依存(症)からの脱却、生活の見直し
- ★復興を早めるためには自分たちで
- ★死者と火事がなかった



偶数グループ

O:機会、チャンス

- 地震は当たり前の生活が当たり前ではないことを私たちに教えた
- エネルギーに過度に依存する生活、社会を改めるチャンス

T:脅威、ピンチ

- (地震、津波をみると) 今後、どんなこと(災害)が起きるかわからない

S:強み

- 地震が起きて品不足の時、商店ががんばっていた(店を開けてくれた)
- 近所の助け合いがあり、避難所に行かなくても生活できた
- 井戸があった、断水中でも水には困らなかった

強み(S)とチャンス(O)を活かしてがんばろう

「幸運のまち・鏡石」を売り出そう

被害は多かったが火事と死者が出ていない。

比較的、放射能が少なかった。

ラッキーだった。運が良かった。幸運のまち。まちの強みではないか。

W:弱み

- 第1小学校に亀裂が入り、避難所になるべき体育館がつぶれていた
- ガソリンが不足して、バスや車が使えなかった(自転車は使えた)

機会、チャンス(O)に乗じて弱み(W)を克服しよう

遠くにあってもいざというときに支援してくれる仲間をつくろう

鏡野町、香南市など、遠くからわざわざ物資を届けてくれた(支援協定)。あちこちに友好都市がつくれれば安心。

町民レベルでも何かできないうか。

自分たちで、備蓄することも必要だ。

逆転の発想 or 撤退

新しい防災計画の早期策定を。

放射能の認識不足も解消して。

町役場は大切、損傷したところは直す。

今回の被災体験を生かして次の災害に備えよう

開業医が多いので医者マップ、災害時の協力井戸のマップをつくる。

火事を対象に少数で行ってきた防災訓練を、多くの町民を交えた総合防災訓練に。

強み(S)を活かして、逆境(T)に立ち向かおう

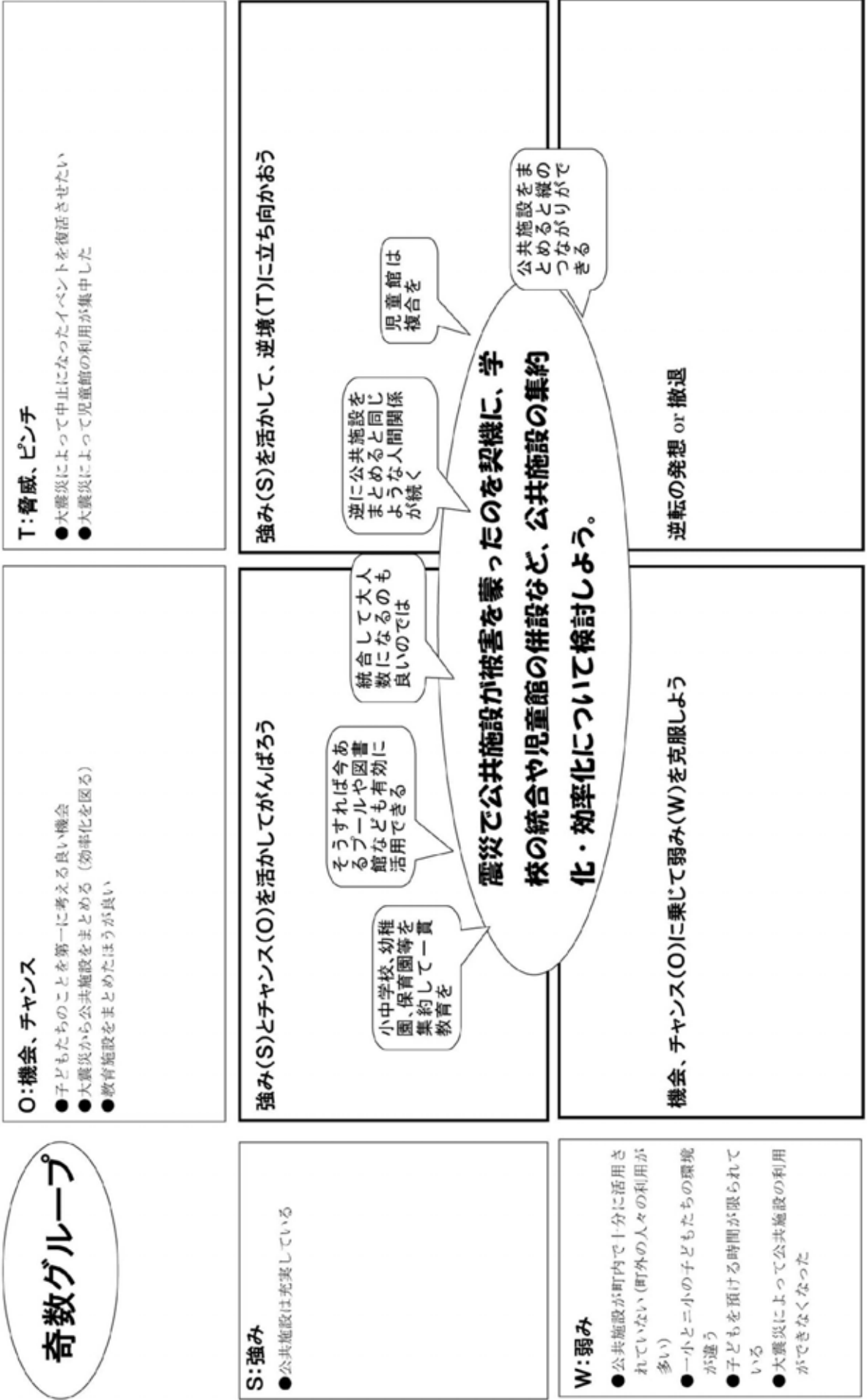
こどもが帰ってきたいと思うまちづくり

最初は怖くてまちから出て行ったが、そのうちふるさとに帰りたいと子供が言うように。子供が改めて、生まれた場所が良いことに気がついた。

子供から見ただ震災体験が大切では。

5 「教育・文化」をテーマとした「SWOT分析」による町民提案

奇数グループ



震災で公共施設が被害を蒙ったのを契機に、学校の統合や児童館の併設など、公共施設の集約化・効率化について検討しよう。

5 「教育・文化」をテーマとした「SWOT分析」による町民提案

偶数グループ

O:機会、チャンス

- 子どもに何か役割を与えてコミュニケーションの場を作り、子どもを地域みんなで育てる。
- スポーツ公施設で、スポーツ選手を呼んで講習会を開く
- 須賀川、矢吹に文化センターが、町にはないが近くにあるので便利
- 文化センターがないが、近隣市町村の施設が利用できて便利
- スクールバスは、小学校を統合した場合と維持費の比較を

T:脅威、ピンチ

- 放射線の正しい知識を
- 放射能問題がある

奥の細道由来の「かげ沼、鏡沼」の整備

各地区の盆踊りを保存、継承すべき

町の文化財を整備して欲しい

強み(S)とチャンス(O)を活かしてがんばろう

子どもにも役割を与え、その実現のために互いに協力できる場を地域でつくるなど、未来を担う子どもを地域のみんなで育てよう。
充実した公施設を活かしたりイベントを利用したりすることで、盛んに行われている文化活動の発表の場を増やそう。その情報を町のみんなや町外に発信して多くの人に覚えてもらおう。

S:強み

- 施設が充実→他市町村からうらやましがられる教育の町
- 駅に近い図書館、立地条件が良い
- かんかん館、まちなな交流館、ミニ集会をするのによかった(かんかん館の復活)
- 「つどいの広場」子育て母親の交流の場として良い事業

機会、チャンス(O)に乗じて弱み(W)を克服しよう

優れた町の文化にさらに磨きをかけ、日常における地域住民の交流機会も増やすことにより、文化と交流のまちづくりをすすめよう。

- 「牧場のしずく」を継続的に作ってほしい
- 笠石本々神楽をもっと広くアピールして欲しい
- 「町民運動会」地域住民の交流の場として良かった
- 「鏡石の話」をもっと充実させて欲しい

W:弱み

- 町の情報がすぐわかる場がない
- 年配の人から「鏡石村」やその前のことや土地柄の話を聞ける場が欲しい
- 放課後の子ども、共働き世帯だと預かる場所がない
- ポランテアを募集したら、多数応募があった→ポランテアを活用するノウハウがなかった
- シルバー（見守り隊）より若い世代のポランテアがもっと欲しい
- 放課後児童クラブをもっと充実させて欲しい
- 仮設校舎の騒音がひどい

強み(S)を活かして、逆境(T)に立ち向かおう

恵まれた郷土の歴史や文化資源を掘り起こし、現代に蘇らすことで多くの人を呼び、まちの活力を高めよう。そのためのノウハウを蓄積しよう。
震災で被害を受けた公施設は将来に向けて有効に利用でき、夢のある施設にしよう。

第一小学校の仮設校舎→早急な夢のある校舎改築を

児童館、中途半端、要望が多い、(利用者)スペースが不足

小学校の統合(一小と二小)

逆転の発想 or 撤退

重大な関心事となっている放射能問題について、放射線の正しい知識を学び的確な対処ができるようにして、若い人が安心して住めるようなまちをつくらう

放射能問題を早く解決、転出者が続出

提言

これまでの話し合いの結果を次の5項目にまとめ、提言とします。

1. 健康・福祉

交通が便利で緑豊かな平坦な土地があるなどの立地条件に恵まれているので、医療・福祉施設を積極的に誘致しよう。

県内でもトップクラスの農業のまちで生産した美味しい野菜を生かし、健康・鏡石ブランドをつくろう。

スポーツや健康づくりへの関心の高まりを背景に、十分活用されていない施設を活用して各種大会やスポーツクラブの充実を図ろう。また、きれいな水質を維持できるプールを活かして皆の健康のお手伝いをしよう。

全国的に高齢化が進んでいるが、町内には元気な高齢者も多いので、高齢者の得意な分野を活かした活躍の場をつくろう。

恵まれた施設を有効利用してスポーツ活動を通じて、健康・福祉のまちをつくろう。

2. 産業・地域振興

車が便利な立地条件を活かして、道の駅をつくって、まちのいろいろな施設や名所と連携させよう。さらに、鉄道の駅と道の駅とあわせた『まちの駅』をつくり、魅力スポットにし、そこを基点にあるいてまちをめぐる。

だれもが自由に情報交換できる便利さに乗じて、ブログやHP・タウン誌をつくって、まずは、地元から、さらに全国にまちの情報を発信しよう。

住む場所としては最高なのだから、もっと働く場をつくろう。農業の加工、流通販売への展開を図り、付加価値を高めた6次産業を目指そう。

町内でつくる「牧場のしずく」をブランド米に高め、お米パン、きき米（ごはん）大会、田んぼアート、など、お米や水田を活かしたまちづくりをしよう。

3. 震災を体験して

大震災に遭遇し、一人では生きていけない、手を携えて生きることが必要であることを学んだ。復興を早めるには自分たちが力をあわせてできることからやっつけよう。

エネルギーへの過度の依存（症）から脱却するために、現状のライフスタイル・生活の見直しをしよう。

放射線の健康への不安が言われているが、正しい情報を発信して、鏡石を健康・長寿のまちにしよう。

震災時に店を閉めないで町民の生活を支えてくれた商店街と連携したまちづくりをすすめよう。

隣近所の仕切りを取り払ったコミュニティづくりをすすめ、互いに助け合う互助の意識を高め、いざというときの町民力・地域力の向上を目指そう。

4．都市復興と協働

まちは元気、鏡石のプラスイメージを全国へ発信しよう。今こそ地産地消を推進すべきだ。地元農業や商店街が生活を支えるまちのイメージや、エネルギー、風力、太陽光等自然エネルギーのまちのイメージづくりをすすめよう。

平時から地域の連絡網や見守り体制を整え、いざというときに連絡が取りあえ、助けあえるコミュニティづくりをしよう。

交通機関がだめでも、自転車に役立つまちにしよう。まちは平らで自転車が使いやすい。ガソリンもいらず、健康にも良い。

被害は大きかったが火災や死亡者がなかった。比較的、放射能が少なかった。幸運のまちだ。これはまちの強みではないか。「幸運のまち・鏡石」を売り出そう。

地震が怖くてまちから出て行ったが、そのうちふるさとに帰りたいと子供が言うようになり、改めて生まれた場所が良いことに気がついた。こどもが帰ってきたいと思うまちづくりにしよう。

支援協定を結ぶ岡山県の鏡野町・高知県の香南市など、遠くから物資を届けてくれた。あちこちに友好都市がつくれれば安心だ。町民レベルでも、遠くにあってもいざというときに支援してくれる仲間をつくろう。

町には新しい防災計画の早期策定をお願いしたいが、町民がつくる自主的な防災対策も必要だ。また、火事を対象に少数で行ってきた防災訓練を、多くの町民を交えた総合防災訓練にすることも。開業医が多いので医者マップ、災害時の協力井戸のマップをつくると良い。今回の被災体験を生かして次の災害に備えよう。

5．教育・文化

震災で公共施設が被害を蒙ったことを契機として、小学校の統合や児童館の併設など、公共施設の集約化・効率化について検討しよう。さらに周辺市町村との広域利用も考慮したら。

子どもにも役割を与え、その実現のために互いに協力できる場を地域でつくるなど、未来を担う子どもを地域のみんなで育てよう。

人とのふれあいや豊かなコミュニティを求める声を背景に、ばらばらな運動会を世代交流型のひとつの運動会にしよう。

充実した公共施設を活かしたりイベントを利用したりすることで、盛んに行われている文

化活動の発表の場を増やそう。その情報を町のみんなや町外に発信して多くの人に見てもらおう。

恵まれた郷土の歴史や文化資源を掘り起こし、現代に蘇らすことで多くの人を呼び、まちの活力を高めよう。そのためのノウハウを蓄積しよう。

優れた町の文化にさらに磨きをかけ、日常における地域住民の交流機会も増やすことにより、文化と交流のまちづくりをすすめよう。

重大な関心事となっている放射能問題について、放射線の正しい知識を学び的確な対処ができるようにして、若い人が安心して住めるようなまちをつくろう。

参考資料 5 . 町民意識調査結果の概要

- ・総合計画、国土利用計画、都市計画マスタープランの改定にあたって、町民の意向を把握するため、町民意識調査（アンケート調査）を実施しました。
- ・その概要は、以下のとおりです。

（１）実施概要

調査対象の抽出方法

- ・調査対象抽出の方法は、次のとおりとしました。
 - 町の住民基本台帳からの無作為抽出
 - 満 20 歳以上の町民 2,000 人を対象とし、男女各 1000 人を抽出

調査工程

- ・調査工程を、次の通りとしました。
 - 2011 年（平成 23 年）1 月 24 日（月）：調査票の発送
 - 2 月 14 日（月）：回答の締切り
- *ただし、2 月 28 日（月）までに届いたものは有効票として扱いました。

調査項目

- ・意向調査は、総合計画・国土利用計画及び都市計画マスタープランの策定に活用するため、これらの策定にとって有効と考えられる設問から構成しました。
- ・設問項目は次の通りです。

依頼文

第 1 部 . 鏡石町に関する評価・期待

問 1 . 町民として誇れるもの・残したいもの（資源・財産）

問 2 . 住み良さ・住みにくさ（居住環境評価）

問 3 . 分野別の満足の種類（満足度評価）

問 4 . 将来のあるべき姿（将来像）

問 5 . 住み続けたいかどうか（居住継続意向）

第 2 部 . 鏡石町の 3 計画に関する事項

問 6 . 3 計画ごとの認知の有無と程度（3 計画の認知度）

問 7 . 優先して取り組むべき施策（優先施策）

第 3 部 . 分野別の施策に関する事項（重要度評価）及び関連事項

問 8-1 . 土地利用・都市基盤関連分野の施策に関する重要度

問 8-2 . 自家用車の利用状況

問 8-3 . 自動車に過度に依存しないまちづくりへの考え方

問 8-4 . 土地利用と都市づくりの方向性

問 9-1 . 保健・医療・福祉分野の施策に関する重要度

問 9-2 . 健康診断の受診状況

- 問 9-3 . 介護に対する不安感
- 問 10-1 . 産業施策に関する重要度
- 問 10-2 . 地元産農畜産物の優先購入について
- 問 10-3 . 観光振興の資源
- 問 11-1 . 教育・文化・スポーツ関連分野の施策に関する重要度
- 問 11-2 . 学校教育の方向性
- 問 11-3 . 生涯学習の状況
- 問 12-1 . 生活環境・安全対策分野の施策に関する重要度
- 問 12-2 . 公園やポケットパークについて
- 問 12-3 . グリーンロードの認知度
- 問 13-1 . コミュニティの活性化分野の施策に関する重要度
- 問 13-2 . 地域活動への参加状況
- 問 13-3 . 地域活動のための施設の有無
- 問 14-1 . 行財政運営分野の施策に関する重要度
- 問 14-2 . 窓口サービスや公共施設の維持管理に対する評価
- 問 14-3 . 町のホームページの利用状況
- 第 4 部 . 行政情報の公開と町民参加に関する事項
- 問 15 . 関心があり重要と考えられる行政情報
- 問 16 . まちづくりへの参加意向
- 第 5 部 . 基礎的情報 (属性)
- 問 17 . 居住地区 (13 区別)
- 問 18 . 性別
- 問 19 . 年齢
- 問 20 . 居住年数
- 問 21 . 職業
- 自由意見 (記述式)

(2) 回収結果

- ・調査票の回収結果は次のとおりです。
959 通 (回収率 48.0%)

(3) 調査結果

町民意向のポイント

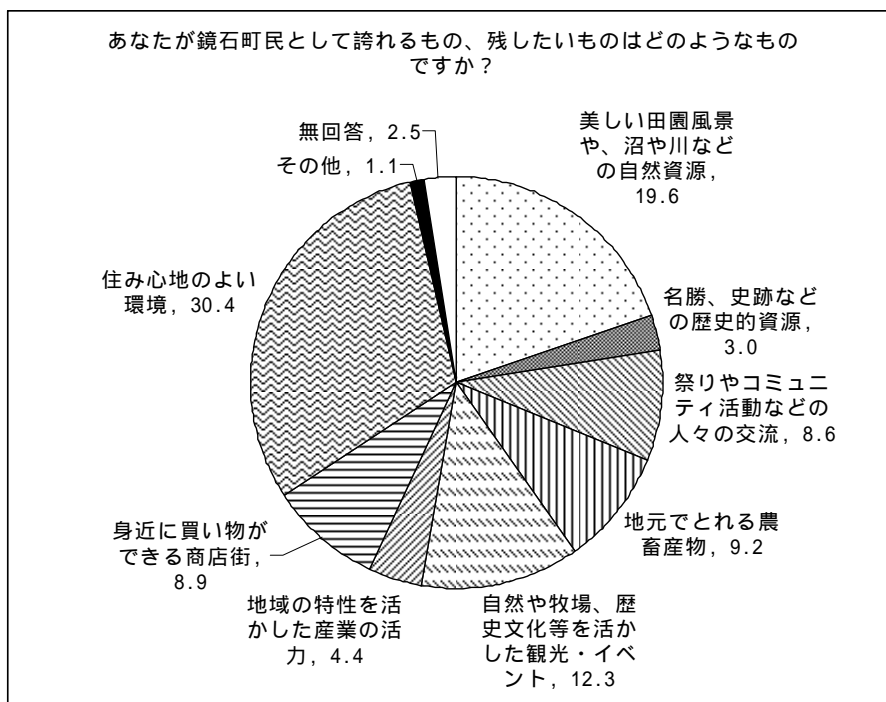
- ・「豊かな自然環境」「生活の利便性の高さ」などが評価されています。
- ・「安心・安全なまちづくり」「産業の活性化」などが問題点・課題として示されました。
- ・町東部において、振興の必要性を指摘する意見が比較的多くみられました。

* 東日本大震災が発生する直前に実施された調査ですが、まちづくりにあたって留意すべき点であることには変わりないと考えられることから、これらに留意して計画の策定を行いました。

主要設問の結果

問1 あなたが鏡石町民として誇れるもの、残したいものはどのようなものですか？
次の中からひとつ選んで をつけて下さい。

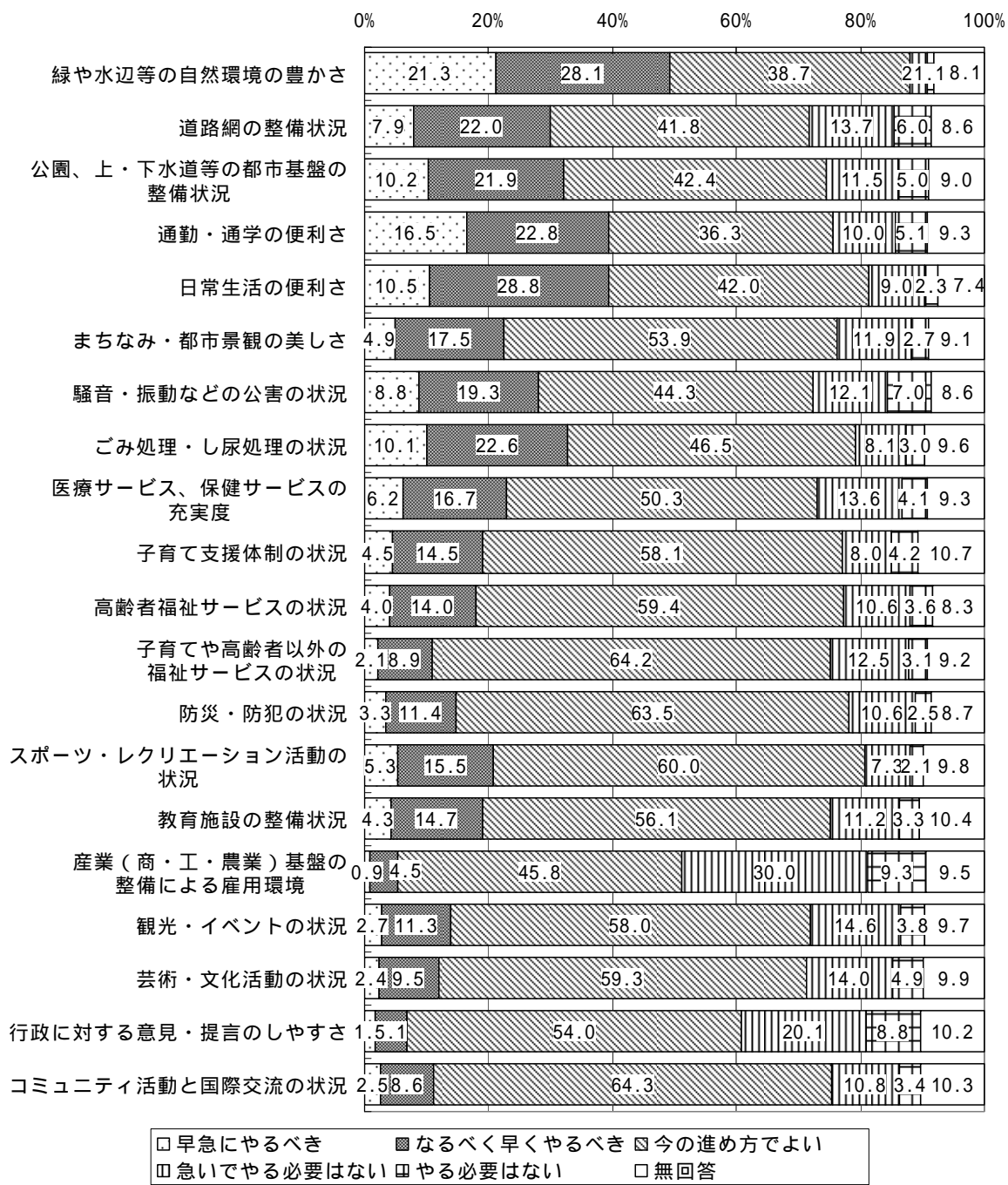
- ・「町民として誇れるもの・残したいもの」は、「8. 住み心地の良い環境」が最も多く30.4%を占めました。
- ・以下、「1. 美しい田園風景や、沼や川などの自然資源（19.6%）」「5. 自然や牧場、歴史文化等を活かした観光・イベント（12.3%）」「4. 地元で取れる農畜産物（9.2%）」の順となりました。



問3 鏡石町の住み心地についてどの程度満足していますか？ 下表の各項目のそれぞれについて、あてはまるものひとつに をつけて下さい。

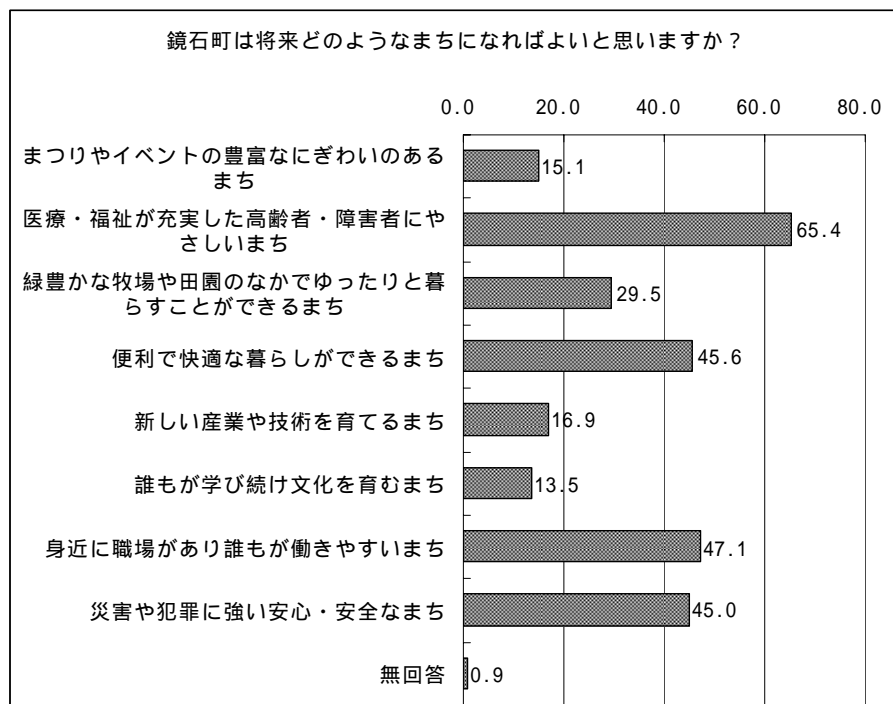
- ・「住み心地」についての満足度は、「1. 緑や水辺等の自然環境の豊かさ」が最も多く「満足」「どちらかといえば満足」を合わせると49.4%と、半数近くに上ります。逆に、最も満足度が低いのは「16. 産業（商・工・農業）基盤の整備による雇用環境」で、「満足」「どちらかといえば満足」を合わせても5.4%に留まっています。
- ・不満足度（「どちらかといえば不満」と「不満」の合計）が高いのは、「16. 産業（商・工・農業）基盤の整備による雇用環境」で39.3%、次いで「19. 行政に対する意見・提言のしやすさ」が28.9%となっています。

鏡石町の住み心地についてどの程度満足していますか？



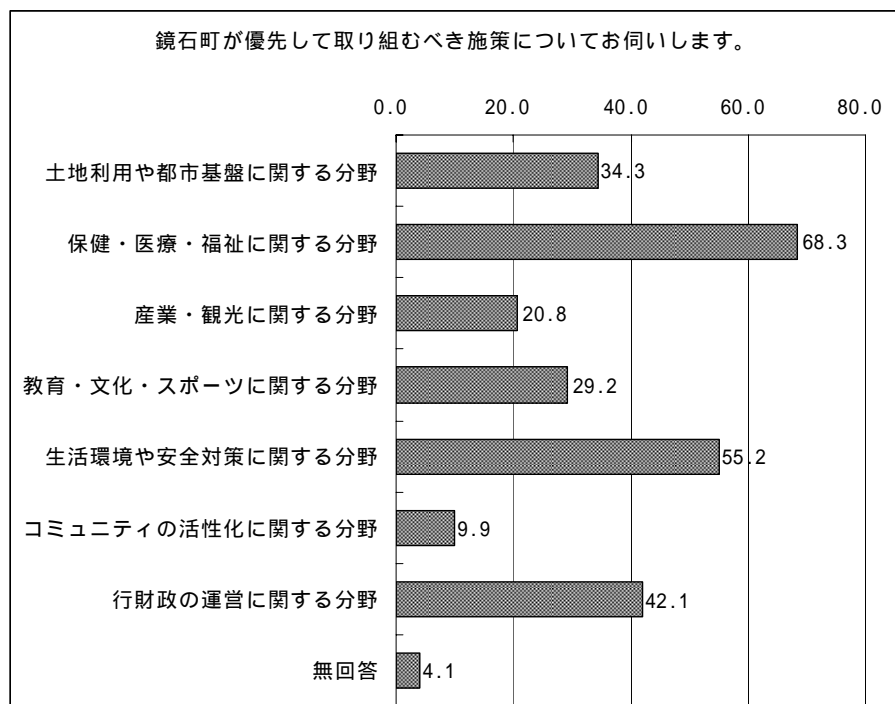
問4 鏡石町は将来どのようなまちになればよいと思いますか？ 特に重要と思うものを3つ以内を選んで をつけて下さい。

- ・「鏡石町がどのような町になればよいと思いますか？」では、「2. 医療・福祉が充実した高齢者・障害者にやさしいまち」が最も多く 65.4%に上っています。
- ・以下、「身近に職場があり誰もが働きやすいまち（47.1%）」「4. 便利で快適な暮らしができるまち（45.6%）」「8. 災害や犯罪に強い安心・安全なまち（45.0%）」の順となりました。



問7 鏡石町が優先して取り組むべき施策についてお伺いします。特に重要と思うものを3つ以内を選んで をつけて下さい。

- ・「鏡石町が優先して取り組むべき施策」は、「2. 保険・医療・福祉に関する分野」が最も多く 68.3%に上っています。
- ・以下、「5. 生活環境や安全対策に関する分野（55.2%）」「7. 行財政の運営に関する分野（42.1%）」の順となりました。



参考資料 6 . 用語解説

【あ行】

ICT (アイ・シー・ティー)

近年飛躍的に技術革新がみられるインターネットや携帯端末などを利用した情報通信技術のことです。一般的にIT (アイ・ティー)とも呼ばれます。

イントラネット

「インターネット」がコンピュータ・ネットワークを接続するネットワークであるのに対し、「イントラネット」はアクセスの範囲やユーザーを限定したものをいいます。企業や行政機関などで導入が進んでいます。

【か行】

グローバル化

「国際化」とほぼ同じ意味ですが、情報技術や交通機関の飛躍的な向上などを背景として、「ヒト」「モノ」「カネ」「情報」が、国境を越えて行き交う状況が進展していることをいいます。

【さ行】

再生可能エネルギー

自然の営みから半永久的に得られ、継続して利用できるエネルギーのことです。

有限でいずれ枯渇する化石燃料 (石油・石炭など) などと違い、自然の活動によってエネルギー源が絶えず再生、供給されることから、地球環境への負荷が少ないといわれます。新エネルギー (地熱・太陽光・太陽熱・風力・雪氷熱・温度差・バイオマスなど)、大規模水力、波力・海洋温度差熱などの種類があります。

市街化調整区域

都市計画区域内で、市街化を促進すべき区域である「市街化区域」に対して、当面は市街化を抑制すべき区域として定められるものです。開発は原則として制限されます。

スマートインターチェンジ

高速道路の本線やサービスエリア、パーキングエリアなどから乗り降りができるように設置されるインターチェンジのことで、通行可能な車両 (料金の支払い方法) を、ETCを搭載した車両に限定しているものをいいます。

利用車両が限定されているため、簡易な料金所の設置で済み、料金徴収員が不要なため、従来のICに比べて低コストで導入できるなどのメリットがあります。

本町においても、すでに鏡石スマートインターチェンジが設置されています。

【た行】

都市計画道路

都市計画で定められる道路のことをいいます。計画線が定められると、計画区域の内部で建築制限がはたらきます。

【な行】

認定子ども園

「就学前の子どもに関する教育、保育等の総合的な提供の推進に関する法律」に基づいて、2006年（平成18）10月1日から設置された保育施設のことです。保護者の就労の有無などにかかわらず入園が可能なもので、幼稚園と保育所の機能を合わせもつものとして全国で導入が進んでいます。

ノーマライゼーション

高齢者や障害者などを施設に隔離するなどの差別的な扱いをせず、健常者と一緒に助け合いながら暮らしていくのが正常な社会のあり方であるとする考え方、あるいは、その考え方に基づく福祉施策のことです。

【は行】

バリアフリー化

建築物の内部や道路などの屋外空間において、段差などの障害を除去することをいいます。

【ま行】

モータリゼーション

自動車利用が進行することです。

【や行】

幼保一体化

これまで、各々教育施設と福祉施設として別個に建設・運営されてきた幼稚園と保育園について、双方の良いところを活かして、施設や運営形態を統合するなどの取組みのことです。国の主導で進められており、本町でも、私立鏡石栄光幼稚園が「認定こども園」に移行していますが、実際に両施設をどのように再編するかなどの詳細は、国が検討中の段階にあります。

ユニバーサルデザイン

年齢、性別、身体的状況、国籍、言語などの違いに関わらず、すべての人が安全で快適に利用できるような環境などのデザインの事です。

【わ行】

ワークショップ

「共同でものを作り出す作業場」の事ですが、まちづくりなどの検討にあたって、自由に意見を出し合って進める会議の名称としても使われます。

本計画においては、「鏡石町まちづくり委員会」を設置し、ワークショップで検討、提言をいただきました。

ワークライフバランス

仕事と家庭生活のバランスをとることをいいます。

~ かわる、かがやく、“牧場の朝”のまち かがみいし ~
鏡石町第5次総合計画

発 行：福島県鏡石町

〒969-0492

福島県岩瀬郡鏡石町不時沼 345

TEL (0248) 62-2111 FAX (0248) 62-6553

発 行 日：平成 24 年 3 月

編集制作：鏡石町 総務課

編集協力：昭和株式会社

